

第1分科会-⑤

居宅の介護支援専門員の役割と課題

自主勉強会

事例検討

スーパービジョン

山梨県 身延町

自主勉強会活動から見えてきたこと

みのぶさんだいがく
身延山大学

講師：楢木 博之

E-mail : naraki @ min.ac.jp

施設またはサービス
の概要

<取り組んだ課題>

平成21年度介護報酬改定により、居宅介護支援事業所においても主任介護支援専門員が求められるようになった。この動きから平成21年度以降、主任介護支援専門員研修への参加者が増加している。しかし居宅介護支援専門員の主任介護支援専門員の役割については曖昧のままであり、そのことが個々での意識の違いになっている。また、研修を終えた主任介護支援専門員が、介護支援専門員支援を行う力量について不安を抱いている声をよく耳にする。

このような状況下で、平成18年よりS県H市の居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員が自主的に集まり、スーパービジョンの継続的な研修を実施している。本論では、その取り組みを紹介するとともに、居宅介護支援事業所の今後の役割と課題について考えてみたい。

<具体的な取り組み>

S県H市において、平成18年度より居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員が数名集まり、自主勉強会を企画した。2ヶ月に1回、定期的に集まり、主に事例検討を行っている。演者は自主勉強会の指導者として、設立当初から関わっている。活動の詳細は以下のとおりである。

(1) 参加者・人数

S県H市の居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員 10名程度

毎年、新しく主任介護支援専門員になった人が参加するので、参加者は増加している。

基本的には自主勉強会の位置づけとして活動している。

(2) 開催日程

原則2ヶ月に1回。時間は19:00~21:00

(3) 活動経過

平成18年度主任介護支援専門員一期生が、「このまま主任介護支援専門員になるには不安」との声が多くなったことから、H市のメンバーが自動的に集まって学びを継続することとした。

(4) 活動目的

主任介護支援専門員が介護支援専門員の支援を行なうことができるよう、スーパーバイザーとしての力量をつけることを目的としている。

(5) 活動内容

事例検討会を中心。事例提出者とスーパーバイザー役を明確に決めて、実施している。初めての参加者に対して、「事例検討」についての講義を行う機会も作った。

事例検討では、参加者全員が交代でスーパーバイザーになり、スーパービジョンを行うことを意識して、取り組むようにしている。

<活動の成果と評価>

主任介護支援専門員として介護支援専門員支援を行うこと、スーパーバイザーになることへの意識が強くなっている。参加者からは、「自らの事業所への支援だけではなく、地域の介護支援専門員に対しての支援も必要」と話す参加者が増えている。そして実際に地域包括支援センターと協働して、スーパービジョンを行う活動まで発展している。

<今後の課題>

法人内だけではない、地域の中で「介護支援専門員への支援」活動を行うことが重要である。地域包括支援センターと居宅介護支援事業所の主任介護支援専門員が協働で、地域の介護支援専門員の質の向上を常に意識して活動する必要がある。